

必ず増える心臓病

生活習慣の改善大切

豊橋ハートセンター院長が講演

音羽町

音羽町の秋公民館生涯学習グループ「秋実年ふれあい大学」(山本衛会長)恒例の講演会は25日、音羽町ホールで開かれ、講師に日本の名医として知られる豊橋ハートセン

ター(豊橋市大山町)の鈴木孝彦院長を招いた。会場は、満席の約350人が熱心に聴き入り、時にメモを取って学んでいた。

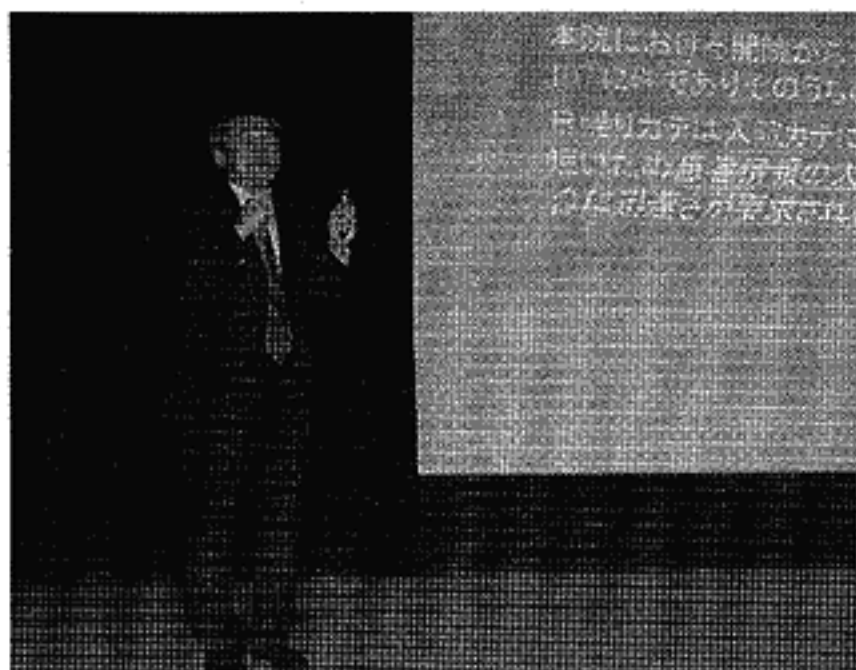
「狭心症の新しい治療法とその予防について」と題し、「カテーテル治療法」におけるバルーン(風船)療法とステント(主にステントレスを使用)

療法の仕組みを紹介。特にステント療法はバルーン療法より再治療率が10%低く、主流。また、画期的な薬剤溶出ステントを世界中で日本だけが使

っておらず、「厚生省の頭が固いから。今年中には出るかも」と期待を寄せた。世界の傾向では手術はなくなる方向にあるという。

「食変化により、日本人は今後、心筋梗塞や狭心症など虚血性心臓病が必ず増える」ため、予防法として①7、8時間の十分な睡眠②禁煙③適正体重の維持④適度な飲酒

⑤定期的にかなり激しいスポーツ⑥朝食をとる⑦間食しない―を挙げ、「生活習慣を改善をすること、冠動脈疾患(心筋梗塞、狭心症)の予防はできる。万一症状が出ても、風船療法で治療すれば、再び元気になる。また、食事療法(和食や繊維質、ビタミン類)も」と結論づけた。



講演する鈴木孝彦豊橋ハートセンター院長